

「私の第一声②③」

【私の小学校時代のオカルトブーム】

私が小学生の頃というのは、もう40年も前のことになるのですね。月日の経つのは本当に早い。前々号で書いたように、私の夏休みは、毎日、朝から晩まで遊びに夢中でした。今でも同じようなことをしている子もいるだろうと思いますが、今と大きく異なることもあります。電子ゲームの登場とネット環境の充実です。私はゲーム世代と呼ばれ始めた年代です。しかし小学生がファミコンに夢中になるのは、もう少し後です。たとえ電子ゲームをするにしても、誰かの家に集まってひとしきり遊んだら、場所を変えて野球やサッカー含め別の遊びもしていました。時間はたっぷりありましたから、今から考えれば、わけのわからないことにも、時間を使っていたことを思い出します。

よく覚えているのは、小学校4・5年生の時に、日本中で「口裂け女ブーム」があったことです。自分の住んでいる町にも目撃情報が出始め、その度に、仲間内で探しに行くのですが、マスクをしている女性を見かけただけで怖くて逃げていました。「コックリさん」も流行りました。狐の霊を呼び出して、未来のことや、人の心の内側を教えてください。私の小学校では、人を傷つけるトラブルも多く起こったため、禁止された記憶があります。あの頃はオカルトブームで、ユリ・ゲラーのスプーン曲げやノストラダムスの大予言を信じる人も多く、今から考えればバカバカしいことも騒ぎになり、「もしかしたら本当かも…」と大人でも感じている人が多かった気がします。

同じ頃、私の小学校の裏の古墳と思われる小さな森を中心に、毛糸束で作った藁人形のようなものがあちこちに吊るされていて、保護者も巻き込んで大騒ぎになっていきました。私と仲間数人は、面白半分に調査に乗り出しました。まず、吊るされている人形の形、色などを、学校でつかう校区地図のその場所に書き込みます。どこで誰が作り、なぜ吊るして回るのかを推理するためです。そうこうしているうちに「おばさんが拝んでいるのを見た。子どもを亡くした母親が人形を作っているのだ」「工事現場のおっちゃんが作っているのを見た。子どもをさらって埋めた場所の目印にしているのだ」など、事実を少し加え

た根拠のない噂が広がります。さらに「〇丁の〇〇さんが、〇〇さんを呪っているんだ」などと、噂の中に具体的な名前まで出始めます。途中からどんどん怖くなり、調査をやめたいのですが、「ビビってる」と思われるのが嫌で、やめると言い出せなかったのを覚えています。

後日、真相が明らかになりました。当時、泉北ニュータウンは急速に開発されつつあり、大きなマンションやたくさんの家が次々と建ち、そこら中が工事現場でした。その現場の何人かの器用な作業員さんが、休憩時間に毛糸で人形や房飾りを作っていたらしゃったのです。近所の子どもが欲しがるのでプレゼントしてくれたのですが、もらった子どもたちが、面白がって学校の裏山や町のあちこちの木や金網に飾って回っていたのです。好意でしてくださったことなのに、子どもの配慮のない行動で、大騒ぎになってしまったのでした。

【人権教育の大切さ】

貝塚三中では、この3年間、人権教育について研究してきました。特に中3では、2学期に、SNS上で起こっている人権侵害事象の深刻さとその対応についても学んでいます。

ゲストティーチャーを招き、根拠のない噂が事実かのように喧伝され、誰かが傷つけられることが、令和の時代でも頻繁に起こっており、本当に恐ろしいということを知りました。そして、その対応方法として、人を傷つけかねない噂を聞いたら、自分で本当かどうか確認しない限り信じない、他の人に伝えないという決意が大切であることを確認しました。また、世の中には、傷つけられている人の側に立ち、その人を支えるメッセージを伝えたり発信したりする人々もたくさんいて、その生き方がとても「かっこいい」と感じたと同時に、私たちも毎日の生活の中で、実はそのようなメッセージや行動に支え支えられ、励まし励まされていることにも気づきました。それらの一見些細なことに見えるけれど大切な行動を拡げていくことが、私たち大人も含め、非常に大切なことだと感じています。

【不定期コラムNo.36】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP